令和元年度第１回八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館運営協議会会議録

日時　　令和元年７月３日（水）13 時 30 分～15 時 05 分
場所　　是川縄文館研修室
出席委員　７名
　　岡村道雄会長　石川宏之副会長　高田和徳委員　福田友之委員
　　山下治子委員　石藤清悦委員　鈴木規夫委員
事 務 局　11 名
　　石亀教育部長　橋本教育部次長兼教育総務課長　工藤館長　田茂副館長
　　小保内参事　小久保主幹　金澤主査　熊野主査　横山主査　市川主査　番沢主査

次第　　１　委嘱状交付
　　２　教育長挨拶
　　３　会長挨拶
　　４　会議　案件（１）平成 30 年度事業報告
　　（２）その他

４　会議
（１）平成 30 年度事業報告①
事務局説明
質疑応答
（会長）
　何かご意見、ご質問、ございませんでしょうか。事前に資料を読んでいただいていますよね。何かありませんでしょうか。

（高田委員）
　館の運営とか活動とか、調査研究活動とか、遺跡の発掘調査とか、正直言ってよくこれだけのことをやれるなという感じがしますよね。ただそれはどうなのでしょうね。職員の皆さんが「かなり負担だ」ということはないですか。非常に種類も多いし、いろいろな方面で、普通これをパッと見ていて、どのようにしてやっているんだろうと思いましたよ。それでもずっと継続してやっているからね。すごいことだと思います。あまり言いにくいのかもしれませんが、仕事の方はどうですかね。職員の皆さんは。働き方改革をしなくても良い感じなのですか。

（事務局）
はい。学芸員の能力による所も多分にあるのですけれども、人それぞれですので、過度の負担にならないように、配慮しながら、これからも進めて参りたいと思います。場合によっては、統合したり、整理したりすることが必要になるかもしれません。今の所はそれぞれ分担してやっています。

（会長）
前も同じ質問が出ていて、同じような回答だったのですが。こういう報告書の時は、どうしても新しいことを、こういう施策をして、こういう成果があったのだという説明をされているし、こういう場面だと思うのですが、スクラップアンドビルドしてこういう部分は省略化しメリハリ付けてやっているのだというふうに、その辺の評価も含めて説明してくれると。今言ったみたいに相当しんどいと思いますよ。その辺に気を付けないと、皆平板になって、働き方改革をしないといけないと思いますが、どうですかね。止めている事業もいくつかあるよね。

（事務局）
ボランティア研修会を 20 回から 12 回に減じています。それに合わせて開催していたボランティアの学習会を館のイベントの体験教室と一緒に行うことで圧縮しました。その他今年度は新採用も 2 人あり、体制は維持されていますので、これまで通りやっている最中です。

（会長）
市内の遺跡の発掘展示、そこを止めると言っていませんでしたか。

（事務局）
来年度から見直す予定です。今年度はやりました。

（会長）
来年度止めるというのは、省力化ですか。

（事務局）
そうではなくて、成果がないのに無理してやっていたところです。

（会長）
そうですか。それなら例えば 2 年に 1 回やるとか。ああいう機会は大切だと思いますので。「自分たちはしっかり働いているので」ということを、世間に言わなければならないしね。そういう省力化も図ってということでしたかね。

（高田委員）
　でも、そこってけっこう人が入っていますね。調査の展示も一日平均 80 人位入っていますよね。そういう企画展がないときでもそれくらい人が入っているのですか。

（事務局）
　これまで、開催を止めたことはないのでわからない状況です。来年度は館蔵資料の展示を埋蔵文化財グループではない縄文の里整備推進グループで受け持ってやることを考えています。常設展だけで春を迎えるつもりはなく、何かしらの企画展示をしたいと考えています。

（高田委員）
　一年のうちで、企画展があるときと、ないときの入れ込み数の違いとかあるのですか。

（事務局）
　今は、企画展をやっていない期間ですけれども、やはり少ないです。

（高田委員）
　でも 80 人というのは結構来ているような感じがしますがね。しかも遺跡調査をしたものを並べて展示するものに、80 人も来るというのは。こないように思いますが。

（石川委員）
　今まで、自己評価というのをやっていただいて、あくまでも振り返りをすることで、継続するものとそうでないもの、基本理念と照らし合わせて、期限付きで試行的にやって来たところを、ある程度目標を達成したものは、もう少し再整備というか、自己点検、自己評価をした上で、これを続けていくかどうかを決める機会が、もうそろそろではないか。９年目になったということと、ミッションの再定義ということで、世界遺産というキーワードが出てきたことで、他の史跡の整備とか、内部環境とか新たに変わってきた、そういう所を踏まえて、事業に見直しとミッション再定義とか、ひょっとしたら９年目にして、これから２年位かけて、事業の再整理、これから何にマンパワーを注力していくかとか、そういう戦略を見直す時期にしても良いのかなあと思いますね。今までのものも大切でしょうけれども、これはちょっと休止しようとか、そういう所の判断がミッションを再定義することで優先順位が変わってくるというのも高田委員のアドバイスの中にあるのかもしれないです。今までの事業をやってさらに世界遺産の事業をやるというのは、上乗せするというのは、体を壊してしまったら大変だなあという不安もあります。

（会長）
　一言だけいいですか。ここは、埋蔵文化財センターと博物館の機能がくっついているので、この市内で掘った物が生きて展示されたり、アウトプットされるということは非常に重要だ

と思います。そういう意味では、市内遺跡の動向の話がありました。また調査件数が 50 件代に戻ったとかあったのですけれども、中を見れば調査面積がどうなるのか、今後どういったようになっていくのか、なかなか新しいものがないとか、めぼしい成果がないから、毎年開催するのは難しいという話。これからどういうふうに計画的にやっていくのか。例えば市内の緊急対応の発掘だけではなくても、館として新しく考えていくところがあってもいいのかという気がするけどね。

（事務局）

今年度から一王寺の確認調査に入りますので、その成果が出れば、展示できるのではないか。実際問題として去年と今年と企画展示室の中に遺物を置く割合というのは、たくさん物が出れば 100%埋まるわけですが、出ないと展示面積が狭くなる。そのかわり今年度は発掘体験コーナーをつくり 3 分の 1 位使って置いたのです。それが現実的に置く物がないということがあって、ある程度たまればできますし、発掘面積が少なくても、松ヶ崎遺跡のように個人住宅 1 軒分調査して、遺物が 50 箱も出るとなれば、ぜんぜん埋めることができますし。たまたまここ 3、4 年は遺物の量が少なかったという状況です。

（会長）

はい。今後の資料を見ながらやるということで。

（福田委員）

ちょっといいですか。市の博物館との連携は、やれるのかどうか。問題があるのでしょうけど、例えば、是川縄文館では新収蔵資料展はないですよね。例えば根城の博物館でやる新収蔵資料展の一角に、その年に発掘された目玉を展示してもらうというようなことはどうなのかなあと思いまして。ちょっと頭をよぎりました。今年は休もうということで、入館者の増は期待できないわけですけれども、根城の方に人が入ったら、それはそれで良いのではないかなと思いましたが。

（会長）

市内で発掘かなんか新聞に取り上げられたもので、市民が関心を持った物がどこにもないということはないのですか。

（事務局）

昨年、新聞に取り上げてもらったのは、新田城跡の確認調査をしたけど、遺物にすると 1 箱ないのです。近世陶磁器でなかなか展示スペースとしては埋まらない。それに確認段階なので、中世近世の史実に対してあまり思い切ったことは言えないですし。

（会長）

分かりました。緊急調査、発掘件数をみると、件数は横ばいだけど面積は減ってるんだよね。1 つの発掘が狭くなっているので、当然遺物も少ないという、その辺現状を見ながら、考えてください。良いですかね、このことは。

一つだけいいですか。今回いくつか展示企画して発表されましたけれども、それぞれの展示した評価とか、その辺関心があります。例えば「海をわたる縄文人～津軽海峡文化圏の縄文～」、福田さんはライフワークでやってこられたわけですが、見てどうですか。

（福田委員）

見させていただきましたが、ここではこの展示は初めてだと思いますが、私の頭の中にあるものは、いつも海峡は障壁なのか、交通路なのかということをいつも考えていて、その辺、行ったり来たりしているのですよ。津軽海峡は、やはり障壁になっていると思うのですよ。

（会長）

だからコンタクトがあったことだけを語る展示にしかなっていないという。それは確かですよね。

（福田委員）

津軽海峡を越えてきたというのは、文化も違うし、今でも違うし縄文も結構違っただろうなと。何か違うんですよ。

（会長）

共通性が強調されちゃうよね。あれを企画したのは誰ですか。反論はないです。

（福田委員）

これは、難しいですからね。障壁になったということを証明することは難しいです。コンタクトがあったということはいくらでも証明しやすいのですが。

（会長）

今言ったけど、文化は一体だという説明にどうしてもなっちゃうけど、狭い地域性というか細分地域性みたら、やっぱり道南とここは違うぞというのがあるわけで。

（福田委員）

今でも津軽弁と函館弁が同じだと言われますけど、十把一絡げにされますけれども、やはり違いますよ。

（事務局）

今回、この企画を担当したのは、採用３年目の学芸員で、初めての特別展で、彼の専門外の縄文を担当してもらって、何とか形にしたというのが実情でありました。お客様からは、縄文人の航海術にも、触れて欲しいという意見をいただきまして、航海の時間帯とか、季節とか、そういったことも調べないのかというご意見をいただきました。今後はそういった意見を活かしていきたいと思っております。

（会長）

思い出したのだけれど、津軽ダムをなんで掘ったんだっけ。10 年くらい掘ったんだっけ。

（福田委員）

平成 15 年くらいから、14、15 年くらい掘ってます。

（会長）

その発掘は終わったのですよね。津軽ダムとは県の大きな事業で、白神山中の北側の部分を、集落を根こそぎ掘ったわけですよ。それで、旧石器が出で、縄文の初め辺りからずっと現在に繋がる一つの集団の軌跡が、地域の中で残されていたというのが丸ごとわかった遺跡群なのですよ。その遺跡群の展示を青森県立郷土館で、まずやったんですよ。今は発掘された日本列島展で、目玉の一つとして相当広いスペースを取って展示しているのですよ。聞くところによると、来年の秋ぐらいに、また同じ展示を是川縄文館でやるのですよね。

そこで、お願いですが、あれだけの費用とマンパワーと時間をかけて掘ったものなので、どういう風な切り口で、どう展示するのか、よく皆で議論して、ものすごい最近の調査成果としては大きいと思います。福田さんどうですか。

（福田委員）

本当に、是川遺跡と出てくるものがすごく似ているのですよね。漆濾し布とか箆形木製品とか縄文琴とか。津軽ダムと是川遺跡の似ている所、共通点というところを出した方が良いかもしれませんね。

（会長）

それが、今の展示に殆ど扱われていないです。その青森県立郷土館も。

誰が企画したのか聞いたら、たくさん遺物候補を出したけれども、削られて、今年度並べられないから削ってこいと言われて、さらに出したらまた削られて、と言っていましたね。何を言いたいかというと、そういう列品がどうのこうのということではなく、これを見て何を伝えようかという展示意図、切り口をちょっと考えてよね。単に物を並べるだけでは、その間に払われた努力があまりにももったいない感じがしましたね。さらに三番煎じとしてここでやるわけで、三番煎じの時にやっと津軽ダムのことが解ったんだ、というぐらいの、

いろいろ整理をして、訴えるところは訴えるようなことを考えて欲しいなあと思いました。
展示準備期間なんかも物によっては、もっと時間をかけてやった方が良いと思います。過重労働になるかもしれませんが。もう少し皆で議論して。

（福田委員）
ちょっと、具体的なことですが、八戸の遺跡は、雷とか、石橋とか、必ず人骨が出てくるのですけれども、世増ダムを掘ったときもずいぶん人骨が出てきました。人骨はどういう具合に処理されているのですか。ここにはないでしょう。

（事務局）
ここにもあります。平成 16 年くらいに、150 体位になってしまい、あまりにも多すぎるということで、当時東北大学にいた百々先生の所に 100 体運んで、そのまま永久に預かるよという話だったので置いたのですが、先生が辞められて、その部下たちもあちこち移動して、一応セットでその次の大学に移動しただろうと、伝え聞いています。その後もすでに 50 体は収蔵しています。

（福田委員）
新たに、無縁仏に埋葬するということは、ないのですか。

（事務局）
学術的にいつ調査するか分からないということと、DNA の鑑定でいろいろなことが分かるので、畑内遺跡の場合、イメージだと混血の無い純粋な縄文人がいたのではないかと思ったのですが、実際はその当時の江戸時代にあって、全国のものと混じっているという結果がでているので。いつ人骨を調べるかわらかないので。

（福田委員）
人骨なので、人間に対する尊厳もあるので、その辺に散らして展示して、人目にさらすというのは考え物ですけれども。その貴重な分析データを何らかの形で活かした方が。人骨は文化財ではないですよね。

（会長）
そこは難しい所なのですけど、法律には明記されていないけど、要綱に第 6 番目の文化財と書いてあります。よくそういう議論になるのですが文化財です。ただし時代はどこまでもっていくかという、そういう問題はあります。

（事務局）
人骨が出た時は、警察を呼びます。現場でこちらから、これは近現代のものではないとい

うと、警察の方もそれで事件性はないということで。

（会長）

文化財認定はしますね。よく問題になるのが戦争がらみとか、近代になってからのものは、警察でもない、文化財でもない、ということで皆嫌がるんだよね。その辺問題はある。

今の話を聞いていて、DNA でルーツだとか盛んに言っているけれども、まだまだこれからなので、生粋の縄文人はいるはずないので。今まで二重構造仮説で言っていた、あのモデルそのものが多分おかしいんですよ。実際 DNA の鑑定をすると、多様だとみんな言い始めて、最近、富山の小竹貝塚という縄文前期の九十何体は、DNA 鑑定したのですが、ムチャクチャで決して単純なものではない。多分もっと古い時代からミックスしていたんですよ。それを今まで単純な在住の人と渡来人の二重構造仮設で言ってきて、DNA もそうだろうと思ってやってやったら、やはり違っている。ましてや近世の人骨だったら縄文人の末裔が、八戸にそのままいた、なんて単純な問題ではない。逆に言えば間をつなぐような近世人骨なんかも、殆ど鑑定していないですよ。現代人の DNA だって、現代人を何人サンプルにしたか。毛髪でやっているのですよ。極一部の。この地域の毛髪だというのが分からなくて。まだまだ DNA はこれからなので。ちょっと予備知識として大事だと思うので。

（福田委員）

展示できないものをいっぱい抱えるというのも大変だね。

（会長）

人骨の収蔵問題は、ぜんぜん未解決だね。九州の方にいくとすごいよ。何千体とか。町が抱えて悲鳴をあげているとか。

はい、どうぞ。

（山下委員）

年報の P50 と P51 のことで。組織関係団体のところで、2～5 までそれぞれのグループがあるのですが、これは館とはどういう関係性なのでしょうか。例えばボランティアさんたちは、館のほうで研修を受けていて、そのあとはどういう活動をしているのですか。館との関わりはそれぞれどんな感じなのですか。

（事務局）

まず、八戸縄文保存協会は、もとから地域にあった二つの団体が合併して保存協会という形でやっている民間団体でありまして、活動としてはこれかわ縄文まつりがメインの活動となっていまして、その他、ミュージアムショップ、カフェの運営を委託していて、事務局を是川縄文館が行っていますので、事務的なことは職員がやっている団体です。

是川文化財愛護会は、是川地区の住民の皆様がメインとなっていまして、縄文学習館にあ

ります竪穴式住居の管理とか、縄文植物の植栽の管理を委託してお願いしております。除雪等もお願いしています。

是川縄文隊は、こちらも是川地区の有志の会で、是川縄文館の PR をしたいと申し出いただきまして、地域の方は農業をやっている方が多いので、野菜販売を通して縄文館を盛り上げようと活動していただいております。

縄文是川ボランティアは、民間、市民のボランティア団体ですが、こちらで活動をしておられますので､研修等は縄文館の職員が受けもってやっているような状況になっております。

（山下委員）

それぞれの交流みたいなものはあるのですか。

（事務局）

はい。年に一回、２月に是川縄文館で懇談会を開催しております。年報の 40 ページにある、(3) 是川縄文館懇談会というところで、意見交換の場を設けております。

（山下委員）

これからも、例えば子どもたちが研修を受けて、もっと継続的に館と一緒にやっていきたいとか申し出があった場合は、館と一緒に活動するグループになっていくのですか。他の館でいうと、一つのボランティアの会が一個だけという所があるのですけれども、学習をしたいというグループが何人か集まったら、積極的にその人たちで学習するんだけど、学芸員の先生方に指導してもらって、自分で勉強するみたいで、何かあったら発表するというような活動している所もあるんですけれども、これらのグループは大人で地域のことを「PR したい」、というのが主な目的なのですが。これからはもう少し、「学習したい」というような人たちもいると思うので、そんな働きかけも良いのかなあと思います。

（事務局）

はい。そういった子どもの意欲を受けて、考古学クラブという、考古学を学習する機会を設けて行っております。P11 にあります。人数は少ないですが。

（高田委員）

何か新しく、「遊人会」というのは、あれはどのようなものですか。

（事務局）

そちらは関係団体というよりは、昨年、緊急的にイベントをされたいということで立ち上げられた団体です。

（高田委員）
自主的にやられているのですか。

（事務局）
はい。その「遊人会」の有志で、縄文フェスというものが開催されました。我々は企画運営に関わっていません。

（石川委員）
よろしいですか。P40 の平成 30 年度の是川縄文館懇談会という仕組みがでてきて、本来今まで学芸員の方々が関わっていたものが、こういう人たちが育ってきて、その代わりに業務を担ってもらえるような、サポーター的な役割になってもらって、本来さっき出てきたミッションの再定義というか、そういったものに対して職員が専念できるような、そういった裾野があるような組織が育っていくと、本来過重労働である所だけに、色んなことをやらなければいけないというものが解消されると良いなあと、改めて思いましたね。
この懇談会でどんなことが話し合われて、PR 方法などについて意見があったという、今後このへんの話なんかが、もう少し具体化して、じゃあ自分たちでどう動いたらいいのかという、彼ら自身が具体的な行動が、来年また報告があると、是川縄文館の戦略的な方向の中で、こういう所をお願いされているというような、また彼らもその方向に向けて、世界遺産に向けて自分たちはどういうことをやろうとしているのかとか、そういう話の繋がりが出てくるとすごく良いのかなあというのはありますね。9 年前に作られた基本構想計画の素案をマイナーチェンジしながら、ミッションの再定義をして、やるべき事業の明確化というか、そういったものをはっきりさせて、今までやって来たものは、ある程度達成させたからちょっと置いておいて、という整理をする、自己点検、自己評価の経緯がそこの段階で入って来るのかなと改めて思いました。

（山下委員）
今のお話の中で、館の業務を手伝おうとかいう話があったのですが、それはちょっと違うと思うのですよね。自主的に自発的に生まれてきたグループなので、自分たちでそのことをやりたい、担いたいという PR 活動とかはあると思うのですけど、むしろ縄文のことを学んだり知ったりすることで、もっと皆さんとコミュニケーションをしていくことを担う、利用者というのになると思います。

（石川委員）
ボランティアとは違うということですね。

（山下委員）
以前はボランティアというのは、安い労働者だという言われ方をした時もあるんですけど、

今はそういうことではないだろうという話になっていて、実際にやらされるというのがボランティアではないので、これらのグループでどうやって何ができるのか、どんなことを巻き込んでいきたいのかっていうことを話し合われているというのがいいと思うし、裾野を広げるために、何ができるのかっていうのをやっていただければいいなと思いました。

（石川委員）

そのためのマネジメントを学芸員の方々が、背負ってしまって業務負担になるという懸念もあって。ある博物館では「友の会」を作りたくないというのがあって、支援団体じゃなくて、何をやってもらえるのかというところがあるから、敢えて作らないんだという博物館もあったりとかするので、それに陥ってしまうと本来の学芸員の人たちの業務の内容とちょっと違うかもしれないなという、ちょっと心配ごとがあるので。今、山下さんのおっしゃるように、自発的に自分たちがやろうとしていることに対して、ちょっとサポートするくらいが、場を設定してあげるくらいの、そういうお付き合いでうまく是川縄文館のミッションに対して、うまく力を結集できるような方向にベクトルを仕向けられると、良い意味での自発性と目的が繋がって、力が分散しないような形になると良いなあという。そういう意味では自分たちの共通認識というか、そういう意味での、先ほどの懇談会の中で共通認識を醸成するような機会を 4～5 年かけてやっていくというのが重要かなと思います。先生、ありがとうございました。

（会長）

はい、ありがとうございました。他に何か。

（鈴木委員）

はい。質問です。P45 の市内小中学校の利用状況の所で、もしお分かりでしたら教えていただきたいと思います。

見学・体験できているところがけっこうありますが、これは八戸市でやっている「はっふる隊」の活用で来られているのでしょうか。もしおわかりであれば教えてください。

（事務局）

P45 の表は「はっふる隊」以外を含んだ全体の利用状況になっていまして、「はっふる隊」につきましては、P16 にまとめているところでございます。

（鈴木委員）

はい。ありがとうございます。

（高田委員）

今、八戸で小中学校は何校あるのですか。

（事務局）
小学校 43 校、中学校 24 校、合わせて 67 校です。

（高田委員）
そのうち、どれくらいの割合で来ているのですか。

（事務局）
30 校ですので、半分よりちょっと下回るくらいです。

（高田委員）
同じ学校が毎年来るとか、そういう訳でもないですか。

（事務局）
毎年ご利用いただいている学校もあるのですけれども、初めて利用される学校もありますし、何年かおきに来られる学校もあります。様々ご利用のかたちがあります。

（高田委員）
映像の貸し出しがすごいですね。こちらから小中学校に働きかけをしているんですか。「こういう映像があります」のような。

（事務局）
こちらは学校に対してではなくて、全体を表しております。

（高田委員）
でも結構多いですよね。個人でも借りたりする人いるのですか。

（事務局）
はい。毎日のように利用申請があります。個人の方もいらっしゃいます。企業の方も、ラジオ、テレビ等の方もあります。

（高田委員）
予めリストを作って、配布して、申し込んでいただくというようになっているのですか。

（事務局）
HP に申し込みの様式と記入例だけをあげていまして、何があるかは示していないのですが、たくさんの要望があって、貸し出しに対応しているような状況です。

（高田委員）
　それは例えばどういうのとか、それに合わせるような感じなのですか。

（事務局）
　はい。そういったお客様もいます。利用者の方もこういうのが欲しいというような場合には提案する場合もありますし、具体的に図録に載っていたこれが借りたいという方もいらっしゃいます。

（高田委員）
　すごく良い数字ですね。ありがとうございます。

（会長）
　では、よろしいでしょうか。次に進みます。

（１）平成 30 年度事業報告②（アンケート集計について）
事務局説明
質疑応答
（会長）
　はい、ありがとうございます。何かご意見があれば。

（石藤委員）
　私、要望をじっくり読ませていただきました。多くはシアターの声が小さいとか、道順とか、重量感知りたいとか、もっと PR して欲しいとか、そういうふうな声が多いのですが、これに対して今後どのように取り組んでいくのか、お聞きしたかったのですが。より満足度を上げることだと思うので、具体的に何かあれば教えて下さい。

（事務局）
　シアターにつきましては、昨年度も 3 台あるうちのスピーカーの 1 台が故障した状態で、アンケートにたくさんご意見をいただきました。先日修理を終えた所です。これについては引き続き、壊れたらなるべく早く修理するということで、対応していきたいと思います。3 台のうち 1 台欠けるだけで、かなり音量が小さくなるように感じてしまうものですので、引き続き維持管理を注意して進めて参りたいと思っております。
　その他、PR につきましては、こちらも取材ですとか、そういったものは絶対断らないようにして、受身とはなっているのですが、なるべく取材を受けて、露出の機会を増やすように努めているところです。それから HP の更新を頻繁にやるように担当とも打合せをしているところですので、そういったことで、まずはできることからということが現状となっております。

（石藤委員）
たった 1 人の声なのですが、これ、分かっていたらお聞きしたいのですが、「小学生の見学の時に、市内と市外の小学生の入場料金がかわるのはおかしいと思います。」という意見があるのですけれども、確か他の施設でも八戸の場合はあったような気もするのですが、この意味というか現状、どうしてそうしているのか、正しいのかというのをお聞きしたいのですが。

（事務局）
館の条例・規則で減免の規定がございまして、市内の小学生を減免するという規定になってございますので、八戸市の市立のセンターということで、そういった規定で運用しております。

（石藤委員）
市内の人が安くなるということですよね。外に発信するのだと同じでもいいのかなという気もしますが、条例で決まっているのならしょうがないのですかね。以上です。

（会長）
実際そういうふうに市内とか、そういう人たちに便宜を図るというのは、色々なところでやっていると思いますがね。

（石藤委員）
上野動物園は都民が安いとか、そういうふうなことだとは思うのですが。

（会長）
それをどう考えていくかだよね。難しい問題ですけどね。安く見られるというのは、市民はうれしいだろうね。まあ難しい話ですけれども。

（石川委員）
先程の話に戻るんですけれども、一つの戦略だと思いますね。地元の人に、まず開館して多くの子供たちに見てもらいたいという、一つの戦略によって減免というのがあったけども、ある時期になると知れ渡っていて、よく KPI という言葉で数値的に表して、そうすると 10 年、20 年経ったら減免は止めて、その分どういうふうに、例えば世界遺産のために、そういうところにお金を費やしていくかとか、何か戦略の一つとしての指標なのかなあと思います。今度の世界遺産を含めて、どういうふうに目標をたてて、残念ながら現状では国内の話ですけれども、どうやって外国人のインバウンドの人たちのデータを取っていくのかとか、種差の方では中国とか韓国とか台湾の人が多く来ているけれども、ここにはアメリカとかヨーロッパの人は来ているけれど、韓国の人はあまり来ていないとか、データが取れ始めると、じ

ゃ私たちはどうしようかとか。そういう戦略とか目標があって、さっきの料金体系の話もそうかもしれませんが、そういう所にシフトしていく。やはり地元の子どもたちが誇れない世界遺産というのはおかしいよな、という地元の子どもたちのリピーター率を維持しつつ、インバウンドの外国人観光客も増やしていくとか、戦略だと思うのですね。そこら辺を明確にしていく。またできればまた数値的な KPI とか出していって、それを 5 年とか 10 年で確認していくみたいな、そういうもの良いのではないかと思いますね。

先程、会長にも話しましたけれども、VISIT はちのへができて、アメリカ人を数値目標として何人増やしていくみたいな、そういう戦略があるので、まさに PR ということに関して、インバウンドに関して言うと、ここと連携をして、昨日お伺いしたら、15,000 円いただければ会員なってもらって、データは色々ありますし、マーケティングも提供しますという話もありましたが、自分たちが PR するのではなくて、ここを通じてデータをもらって、外国人のデータとか、じゃどうやって宣伝していけばいいのかみたいな話に繋げて、上手く外部の情報を使いながら、でも、そこはやはり自分たちがどうしたいのかっていうビジョンがないと、こちらもあくまでもツールなので、ここ 1、2 年くらいで、ミッションの再定義というか 9 年前の構想を見直すというのは、ある意味そういう時期にきたのかなあと、改めて思いました。以上です。

（高田委員）

参考までに、御所野縄文博物館では、世界遺産のこともありますが、今年度 4 月から小中高生は全部無料にしました。やはり来ますね。特に親子連れが入るようになりました。今まで入らなかった人達も入るようになるし、効果はあったような気がしますね。

（山下委員）

私は、小中学生の子どもたちから 50 円とか団体で 30 円とかいただいたとして、学校で来る時が圧倒的に多いと思うのですが、50 円とかいただいて、実際には個人としてくるお客さんがどれくらいあるのか、事務作業の方が多くなっちゃうのではないかとか、むしろ無料にしておいた方が何回も来やすくて、50 円は妥当なのかどうか、0 円にしてもいいのではないかと思います。

（事務局）

市内の小中学生は、無料となっています。市外の方が、このような料金体系になっています。減免か全額かという意味になります。高校生からはいただいているのですけれども。

（山下委員）

市内のお子さんは無料で、他の所から来られた方は有料なのですね。それはどうやって証明するのですか。

（事務局）
受付で学校名と学年を書いてもらっています。信用でやっていて、すらすら書けないと市内かどうかがすぐわかります。

（会長）
はい、大分時間も迫ってきました。何かこの際ご意見はありませんでしょうか。

（福田委員）
一つだけ。国宝の合掌土偶ですね、あれはあちこちに貸し出されますよね。良くパネルで出張中と書いていますけれども、レプリカは何体くらい作っているのですか。

（事務局）
是川縄文館では 3 体と、最近作った 3D プリンターで作ったものを合わせると 4 体になります。

（福田委員）
郷土館でも 1 体あるのですが、県外ではどこにありますか。国立ですか。

（事務局）
県外では国立歴史民俗博物館と新潟県立歴史博物館にあります。

（福田委員）
レプリカは貸出率というのは多いのですか。

（事務局）
レプリカはそれほど多くはありません。

（石川委員）
P15 のところで、体験学習のところで、過去 8 年間の体験学習の利用者の推移というのがありまして、個別体験学習というところの▲は、上の表の中だとどれに該当するのですか。

（事務局）
上の表が▲のグラフと一致しています。

（石川委員）
1 回で 103 人とか 86 人とかありますね。昨日 VISIT はちのへに行って来た時に、外国人観光客で体験というのが売りなのだと、この間イギリスの方がガイドブックを作ると来た時

に、是川縄文館を案内してくれたかと聞いたら、彼らの要望を聞くと体験というものだったから、民泊を紹介したりとかして、是川縄文館は出なかったということを聞いて、この体験があるのにもったいないなあと、こういう所があって、これだけのメニューがあって、参加者も多かったりして、ある意味、外国人が来て個人体験学習かなんかで出来るようなところを、ここの館を通じて、SNS とか HP で新商品、新プログラムでもいいと思うのですが、体験学習などをあげていくということをすれば、台湾、韓国、中国人の方もうみねこに囲まれて楽しむだけではなく、是川縄文館まで足を伸ばしてくれるような、そういう人たちが押し寄せてくれるのかなと、そんな期待も改めて思いました。すばらしいものを P15 に掲載されていると思いました。

（事務局）
英語のガイドの出来るボランティアが限られていますので、彼らの業務量と合わせて検討していきたいと思います。

（石川委員）
八戸では国際観光交流協会とか、そういう部局があるのでしょうか。ボランティアガイドのような組織とか。

（事務局）
以前は、研修会の講師としてお招きしたことがありますが、なかなか無償での対応は難しいということで、今は関係性が途切れています。

（石川委員）
そこも戦略だと思うのですけれども、最近では静岡の三越とか駅前のデパートで中国語対応の売り子さんが研修を受けているという話を聞いて、売り上げを伸ばそうとしていると。あくまでお願いする立場だとは思いますが、そういう戦略を是川縄文館がそっちの方向に皆さんご協力をお願いしますというような、自発的に学ぼうとする人達が増えてくるといいなと思います。三陸ジオパークの方でもまさにそういう話の方向で動き始めているということなので、世界遺産に登録を目指している是川縄文館でもそういうようなベクトルで動いても良いのかなあと思いました。

（高田委員）
世界遺産の関係で、7 月の推薦が決定した以降、いろいろな形で動くと思うのですが、9 月に各遺跡は北海道から北東北までのイコモスの調査に対応したシミュレーションをやるということで、事前にここで、どのようなルートでどのように来るということを、皆さん方で、検討したり準備したりしているのですか。まだですか。

（事務局）
担当で検討に入るところです。

（石川委員）
思い出してしまって恐縮ですが、「これからどこに行きますか」「どこから来ましたか」というのを登呂博物館ではアンケートに入れていて、久能山東照宮行きましたとか、駿府城公園行きましたとか、三保の松原行きましたとか、そういうリストがあって、棒グラフで示してあって、こういうところを周遊して登呂博物館来てくれていたんだというデータができてくるんですね。あくまでこれは日本人のですが、これの英語バージョンがあって、回収率は低いとしても、そういうのは一つのサンプルとしてあって出てくると、データが蓄積されると一つの戦略として、できる範囲で良いのでやってみると良いと思います。八食センターとか朝市はぜったい外せないと思いますね。ヤフーのデータベースから見たら、八食センターとか、朝市がキーワードで出てくるので、是川縄文館も出てくると良いなあと思います。そのような感じで、どこを回るのかというのを調べた方が良いと思います。

（会長）
はい、他によろしいでしょうか。最後にその他、何かありませんか。それでは、事務局にお返しします。

（２）その他

５　閉会